

# 水の週間実行委員会会長賞（優秀賞）

水道大国ニッポン

ベトナム ホーチミン日本人学校 三年 中田 風咲

「うわ、また出た。」目をこすりながら蛇口をひねった直後、水道が今にも破裂しそうな音をだしながら、勢いよく出てきた。小さな汚れをたくさん含んでいる茶色に染まった水を見て、今日も落胆する。そうだ、昨日は断水だった。別に、驚いたり叫んだりはいらない。この水を見るのが何回目か数えきれないからだ。日本から飛行機で約六時間、カンカン照りの太陽とおびただしい数のセミの鳴き声と共に始まるベトナム、ホーチミンの朝だ。

人口一億人目前、現在急激な経済成長を遂げている国ベトナムでは、年々増え続けている高層ビルの建設や交通機関の発達に伴う、深刻な環境問題が課題となっている。その中でも近年、より問題視されている環境問題が「水質汚濁」だ。ベトナムの水質汚濁の原因は生活排水や産業排水、市民による河川や湖へのゴミのポイ捨てなど複数の要因があるといわれている。

私がベトナムに越してきてから約二年、日々の日常の中で「汚い水」を感じる機会が沢山あった。大雨が降る度に排水溝から汚い水があふれ出し、バイクを降りて押している人々の姿。有名なメコン川の船の中からみえるのは、透明とは正反対の水。これまで私が暮らしてきたシンガポールや日本とはかけ離れていた。

「なぜ日本の水は、綺麗で安全なのか。」様々な場面で、幾度も頭に浮かんできた疑問。この疑問を抱えながら、ベトナムから初めて日本に一時帰国をしたとき、この疑問の答えが少し見えてきた。

祖母の家で夕食の準備をしている時、祖母が当たり前のようにみそ汁に使う水を蛇口から鍋に入れていた。私はベトナムの蛇口の水が頭をよぎり、驚きながら「え、蛇口の水で大丈夫？」と、とっさに口にしてしまった。すると祖母は、笑いながら私にこういった。「何を言っているの。ここは日本よ？大丈夫に決まっているじゃない。」私はこの言葉を聞いた時、祖母の日本への信頼の強さに驚いた。この祖母とのエピソードだけにとどまらず、公衆トイレの洗面台の水で歯磨きをしている女性、公園の蛇口から水を飲んでい

る少年など東南アジアの国々ではとても見かけられないような光景をベトナムに帰るまでの間、たくさん目の当たりにし、日本人の自国の水への信頼の大きさを強く実感することができた。日本の水がこの信頼を得るまでには、きつと多くの方々の努力と時間が費やされてきたことだろう。私は水の整備に尽力をされた先人の方々へ思いを馳せた。

日本は明治十年に起きたコレラの大流行をきっかけに、明治から大正、昭和、平成、そして令和、約百四十年の時を超えて、上水道の普及率九割、下水道の普及率八割を超える世界有数の水に恵まれた国に発展したとのこと。現代の日本に住む人々が祖母のように、当たり前のように水道水を使っているのには、日本の水資源を豊富に手に入れられる自然の恵みに加え、先人たちの努力の賜物であることを身染みて感じた。

現在、百九十六か国ある国々の中で水道水が安全に飲める国は僅か十二か国だという。安心して飲める水が身近になく、苦労している人々が大多数の世界の中で、蛇口の水が飲めるという恵まれた環境の日本に生まれたことに、私たち日本人は感謝しなければならないと思った。

私が住むベトナムでも、日本のJICAを含めた支援団体により、下水道・排水システムの整備の支援が行われているという。二〇五〇年までの先進国入りを目指すベトナムにとって、水の整備は重大な課題の一つであるだろう。二十六年後、私は四十歳を迎えているが、その時にはベトナムに足を運び、ベトナムの蛇口をひねって、透明の綺麗な水を見て、感激の声をあげてみたい。